

第八十一回「本郷ふじやま公園古民家歴史部会」「古都鎌倉」歴史探訪

「Ⅵ」10月3日（木）鎌倉深沢に中世の歴史をしのぶ

（集合；湘南モノレール大船駅乗車改札口前9時50分厳守同時出発）

① 行程；湘南モノレール「大船駅」→「湘南深沢駅」→等覚寺→梶原父子墓→御霊神社→東光寺→駒形神社→大慶寺→州崎古戦場跡→泣塔→湘南モノレール・「湘南深沢駅」→大船駅。

② 昼食場所；大船駅前商店街、魚屋さんの経営する昔懐かしい食堂「観音食堂」・

T E L ； 0467-45-1848。

1・等覚寺（休場山・古義真言宗高野山派・元手広青蓮寺末・相模国準四国八十八ヶ所第二十一番札所）

創建は応永年間（1394～1428）と伝えられ、開山は秀恵僧都。茅葺き薬医門形式の山門・入母屋造り瓦葺き本堂・太子堂（弘法大師石像安置）・七体の地藏。本尊は不動明王・その脇に子育て出世地藏（江戸時代作）当時から非常にご利益があると言われ、近郷近在から多くの参拝者があったと言う。山号の「休場山」は梶原景時がこの付近で休んだ事から・付近の人は今でも休み場と呼ぶことも。1873（明治6）に等覚寺の境内に学校を建て、訓蒙（クモリ）学舎と名付け明治8年梶原学校と改めた（明治22年尋常高等深沢小学校・現深沢小学校前身）。

2・梶原父子墓（深沢小校庭内の櫓内・幅2m、高さ1.7m、奥行き1.5m・カジの木、梶原地名由来）

頼朝の懐刀だった梶原景時（～1200）とその一族の墓と言われる五輪塔が4基。「石橋山の戦い」で頼朝が敗走する時平氏方大庭景親に従っていた景時が助けた。「源平盛衰記」には、景時が木の洞穴に隠れている頼朝を見つけたが蜘蛛の糸が張っているから誰もいないと報告し頼朝の命を助けた。

後に源氏に従い頼朝に信頼され重職（侍所所司）に付いたが、頼朝死後、結城朝光を二代将軍頼家に讒言（ザンゴン・三浦義村等御家人66名弾劾状、ザンガイ・景時抗弁せず）で失脚、一族引き連れ、領地相模一宮に退去、1200年1月深夜一族32人を伴って京都を目指したが、駿河の清見関（キヨミヅキ・静岡）近くの街道で、すれ違いの地元侍と喧嘩全員切り伏せられ33人の首が道端にさらされていたと言う、一族滅亡の謎だが、滅亡8日後1月28日、甲斐武田信光が鎌倉に来て兄有義遂電の旨を告げた事、景時京都市行きと関係ありそう。梶原一族の非業の死を聞いた村人が、その霊を慰める為に、やぐらを掘り、塔を造って供養したものでしょう。

校庭内に梶の木（カジの木；双子葉植物クワ科・樹皮から繊維はコウゾウと同様日本紙の原料・赤い実・当時は梶の木多かったと言う・葉は茶道で使う）。

3・御霊神社（梶原鎮守・祭神鎌倉権五郎影政・例祭9月17日近休日・神事芸能湯

立神楽、神輿渡御・神徳家内安全・コンクリート鳥居；昭和59年再建、神明形・石鳥居，大震災で倒壊，それを平成2年11月再建）

建久元年（1190）創建とされる。石灯籠（明治41年5月）・狛犬（明治37年8月戦役凱旋記念一日露戦争）・本殿には梶原景時の木彫り坐像。御霊神社（ゴレイ）とは、土地の祖先の御霊を祀る社で、御霊社（ゴリウシヤ）とも呼ばれます。梶原氏は大庭氏と共に鎌倉権五郎景正を祖とする一族、景正の子、景忠の子のうち景宗が大庭氏を、そして景長がここで梶原氏を起こしたと言われます。梶原氏が滅んだ後は土地の人に守られ梶原村の鎮守となった。五輪塔、庚申塔、石塔、石仏数多い。五輪塔5基の中央のものには1334（建武元）年12月23日と記されている。

杉木立の中の、この社は、もとは葛原岡（鎌倉）に創建されたと言われる、坂の下の社は梶原御霊神社から移されたものと言う。「かご・鹿子」の木（クスノキ科）；木肌に鹿模様がある・ビャクシン（市指定天然記念物）。

4・東光寺（真言宗・天照山薬王院・本尊不動明王右手本堂、伝平安期智証作・正面太子堂、弘法大師像石像）

明治の初めまで駒形神社の別当をつとめた由緒ある寺。古くは藤沢の大庭景親の祖先が建立したと言いつづけている。この寺は1431（永享3）高野山慈眼院の法院靈範が隠居所として中興したと伝えられる。境内には陣出（ジンデ）から持ってきたという五輪塔や宝篋印塔があったそうです。

5・駒形神社・富士浅間神社角塔（寺分・村の鎮守・祭神駒形大神・例祭10月第一日曜・神事芸能初穂を串に挟み神前に捧げる儀式大正期迄行われていた・社宝中国風木造体、木造馬・鳥居明神鳥居形式・明治21年子の年9月吉日建築・拝殿銅板葺切妻造・本殿天保14年1843再建・神徳農業守護神）

この神社は千葉安房神社を勧請したと言われ、治承年間（1177～81）大場影親（藤沢辺り支配）は天候不順の折には代参の者を使わし祈願したと言われる。祭神は駒形大神ですが、近くの人々は、邇々芸（ニギリ）命を祀るとも言われている。境内のやぐらには1822（文政5）弁財天・左手高所には富士浅間神社角塔がある。

6・大慶寺（靈照山・臨済宗円覚寺派・本尊阿弥陀如来・開山大休正念像・元関東十刹の一寺、他現在ある寺；瑞泉寺、東漸寺・樹齢700年ビャクシン2株・宝篋印塔2基）

山門（茅葺四脚門形式）。弘安年間（1278～87）に浄智寺を建てた大休正念（仏源禅師）によって建てられた寺。禅宗で有名な大山道通（ドウツウ）や傑翁是英（ケツウジエイ）僧も此処に住んでいた。戦国時代に戦火にあい、その後寂れてしまったが残された塔頭、方外庵を本堂として、復興したのが現在の大慶寺。

この寺の付近には「ひげつ」「かっけん」「てんだい」「だいどう」「かねつきどう」等の地名が残っていますが、これは、塔頭であった「指月軒・シツゲン」「覚華庵・カクア」「天台庵」「大堂庵」や「鐘つき堂」などの名がそのまま残ったものと伝えられます。その他「堂の前」「堂尻」「寺入」「寺小路」「寺分」等と呼ばれる所も残っています。

○関東（鎌倉）十刹；禅興寺（山ノ内）・東勝寺（滑川）・万寿寺・興聖寺・善福寺・法泉寺・長楽寺（甘縄）。

7・州崎古戦場碑

新田義貞が鎌倉を攻めた時、此の地で北条氏と激しく戦いました。今は山崎・上町屋・寺分と分かれています。当時はこの辺りを州崎郷と呼んでいました。1333（元弘3）新田義貞が鎌倉攻めの折り、堀口貞満らの軍勢10万と北条氏の赤橋守時を大将とする軍勢6万と激突し、一昼夜の間に60数回の合戦の末、北条勢は300に減ってしまったと言われ、守時以下90余名が自決した処。守時は尊氏（適に寝返った）の義兄に当たり、高時以下に疑われるのを恥、自刀したと言う。新田義貞が鎌倉攻めの時、兵を山手（巨福呂坂）、化粧坂、浜手（極楽寺坂）と三軍に分けた。義貞が稲村ヶ崎から攻め込んで、山手の大将堀口貞満も、此処から巨福呂坂を破って攻め入った。

1333年（元弘3）5月18日稲村ヶ崎、19日極楽寺、21日、化粧坂や巨福呂坂からも乱入、鎌倉中が戦場化、鎌倉幕府滅亡。

8・泣塔（国の重要美術品文化財・JR管理地設錠）

小高い丘の上に「泣塔」と呼ばれる石造りの宝篋印塔と、その後ろの櫓の中に数基の五輪塔がある。これらの石塔は、州崎の合戦における、新田義貞に敗れた北条方の死者の霊を慰める為に建てられた供養塔と言われ、宝篋印塔には1356（文和5）丙甲の銘、南北朝の北朝年号刻まれている。

泣塔移設あたり説多い。昔からこの塔のある土地を手に入れた人は必ず貧乏になるので、次から次へと地主が変わったそうです。その為か、ある時この塔を手広の青蓮寺に移した処、夜な夜な風のまにまに、すすり泣くような悲しい声が聞こえるので、寺の人達は驚いて、これは元の場所が恋しくて泣くのだろうと思い、元の場所に戻しました。それからは鳴き声がしなくなったと言う。

昭和17年当時の日本海軍が、第二次世界大戦に必要な兵器を造るためにこの土地に工場を建てました。このとき、この「泣塔」が工場建設の邪魔になったので取り除こうとしましたが、土地の人々は因縁のある泣塔だから間違いが起これなければと心配、海軍も結局、泣塔は現在の場所にそのまま残されたと言う。

以上

歴史探訪古都鎌倉
第6回 10月3日(木)
深沢の歴史をしのぶ
散策地図
縮尺約 1/10000

